



## 村岡 渡

(川崎市立井田病院歯科口腔外科)

### 『顎関節症の臨床検査と診断』

#### <要旨>

日本顎関節学会では、顎関節症の病態分類を Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders (DC/TMD)との整合性を配慮して行い、「顎関節症の概念 2013」、「顎関節症の病態分類 2013」、「顎関節・咀嚼筋の疾患あるいは障害 2014」、「顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害 2014」を公表しました。さらに「顎関節症の診断基準 (2019)」を発表し、それに沿った「顎関節症の診療ガイドライン 2023 改訂版」、「顎関節症の治療指針 2024 (案)」を作成しました。今回はこれらの診断基準や指針に沿って、病態（咀嚼筋痛障害、関節痛障害、復位性関節円板障害、非復位性関節円板障害、変形性顎関節症）と診察について、開口距離等の計測、顎関節雑音の触知、咀嚼筋・顎関節の触診といった基本となる臨床検査から診断について解説し、各病態の基本治療について概説いたします。また、併せて初期治療の原則や倫理についても触れさせていただきます。まずは本講演を顎関節症についての診察、臨床検査、診断から基本治療を再確認する機会として聴講ください。

そして今回の学術講演会では本講演に引き続き、顎関節疾患の画像診断と、顎関節症の各病態における治療の実際と現在のエビデンスについて、講師の先生方に解説いただきます。本講演の内容を踏まえて、以降の講演を聴講ください。

#### <講演内容>

- I 顎関節症の病態分類
- II 顎関節症の診断基準
- III 各病態の病歴と診察
- IV 各病態の初期治療と管理
- V 治療における医療倫理

#### <専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・医療面接を実施できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症の基本治療ができる
- ・医療倫理に基づいた治療・管理ができる

#### <略歴>

- 1997 年 鶴見大学歯学部卒業、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科研修医  
1999 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科専修医、国立栃木病院歯科口腔外科医員  
2001 年 清水市立病院口腔外科医員  
2003 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科助手  
2006 年 日野市立病院歯科口腔外科主任医員  
2009 年 日野市立病院歯科口腔外科医長  
2012 年 川崎市立井田病院歯科口腔外科医長  
慶應義塾大学医学部客員講師（歯科・口腔外科学）  
2017 年～川崎市立井田病院歯科口腔外科部長  
慶應義塾大学医学部非常勤講師（歯科・口腔外科学）

代表的所属学会等：

日本顎関節学会 認定歯科顎関節症専門医・指導医、理事

日本口腔顔面痛学会 専門医・指導医、常務理事

日本口腔外科学会 認定口腔外科専門医、代議員

Diplomate of American Board of Orofacial Pain（米国口腔顔面痛学会ボード認定専門医）

Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, Councilor

医学博士（慶應義塾大学）



## 松本 邦史

(日本大学歯学部歯科放射線学講座)

### 『顎関節疾患の画像診断』

#### <要旨>

顎関節疾患の診断には画像診断が不可欠です。今回は、顎関節症とそれ以外の疾患群に分け、顎関節疾患の画像診断を網羅的に解説していきます。顎関節症に関しては、日本顎関節学会の指針に則り、症例を交えた顎関節症診断の解説と明日から使える TIPS について解説します。顎関節症以外の顎関節疾患については、臨床症状や口腔内外診査の結果に基づいた、画像検査選択から画像の解釈までを概説します。

#### <講演内容>

- I 顎関節疾患の画像検査
- II 顎関節症の画像診断・症例検討
- III 顎関節疾患の画像診断・症例検討

#### <専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の発生、成長・発育、加齢変化を説明できる
- ・画像検査所見を説明できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる

#### <略歴>

- 2002 年 日本大学歯学部卒業
- 2006 年 日本大学大学院歯学研究科修了（歯科放射線学）・博士（歯学）
- 2008 年 日本大学歯学部助教（歯科放射線学講座）
- 2011 年 日本大学歯学部附属歯科病院 顎関節症科医局長
- 2016 年 鹿児島大学病院講師（顎顔面放射線科）
- 2019 年 日本大学歯学部助教（歯科放射線学講座）
- 2020 年 日本大学歯学部准教授（歯科放射線学講座）
- 2023 年 日本大学歯学部附属歯科病院 顎関節症科診療科長

代表的所属学会等：

- 日本歯科専門医機構 歯科放射線専門医
- 日本歯科放射線学会 認定医・指導医
- 日本顎関節学会 暫定指導医・委員（学術委員会、総務委員会、病態分類委員会、研究企画委員会、専門医等試験委員会、若手部会）



## 白田 頌

（慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室  
顎関節障害外来・口腔顔面痛外来担当責任者、睡眠センター）

### 『咀嚼筋痛障害、顎関節痛障害治療の実際とそのエビデンス』

#### <要旨>

「顎関節症は治りきらない病気」と認識している先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。その理由として、各先生がそれぞれ異なる治療方法を持っていたため、一般化されにくかったことが挙げられます。現在は、本学会で「顎関節症治療の指針」を作成しており、その指針に従って診断・治療を行えば、ほとんどの顎関節症患者への対応に困ることはありません。私の専門外来でももちろんその方針に沿って治療を行っており、当院の研修医も同様に治療を行っておりますが、いずれも十分な治療成果を上げています。

それでもなお、「顎関節症治療の指針」が浸透していないと感じる場面は多々あります。本セッションでは、顎関節症の中で最も有名な関節の炎症である「顎関節痛障害」と、最も多いにもかかわらず医師の世代によってはあまり馴染みのない「筋筋膜痛」が原因の「咀嚼筋痛障害」について、ガイドラインを基に臨床に活用しやすいよう解説いたします。

#### <講演内容>

- I 咀嚼筋痛障害について
- II 顎関節痛障害について
- III 筋筋膜痛について

#### <専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の診断および病態診断ができる  
：咀嚼筋痛障害（I型）、顎関節痛障害（II型）
- ・各病態に対し治療・管理目標を設定できる。  
：咀嚼筋痛障害（I型）、顎関節痛障害（II型）
- ・初期治療では本学会の診療ガイドラインを参考に適切な対応をとることができる
- ・理学療法を行える（物理療法、運動療法、その他）
- ・オクルーザルアプライアンス（スプリント）療法を行える  
（スタビリゼーションアプライアンス、その他）

#### <略歴>

- 2006年 東京歯科大学歯学部卒業  
慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室入局
- 2008年 多摩北部医療センター歯科口腔外科医員
- 2015年 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 助教  
顎関節障害外来・口腔顔面痛外来担当責任者、睡眠センター
- 2018年 iOS用セルフケア指導アプリ「慶應いたみケア」開発
- 2021年 いたみ診療お助けLINE開設
- 2021年 日本口腔顔面痛学会発 Web 学習アプリ「アプリで学ぶ口腔顔面痛」開発

代表的所属学会等：

- 日本顎関節学会 専門医、指導医、教育検討委員会副委員長  
日本補綴歯科学会 専門医  
日本口腔顔面痛学会 専門医、理事、評議員、ITC活用委員会委員長  
日本いたみ財団 いたみ専門医  
日本老年歯科医学会 認定医



## 高原 楠旻

(東京科学大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面外科学分野)

### 『顎関節円板障害治療の実際とそのエビデンス』

#### <要旨>

顎関節円板障害は、顎関節症の主要な病態の一つであり、顎運動異常、関節雑音、運動の関節痛を引き起こすことが多く、その治療は患者の QOL に直結します。特に、円板の転位や変性が進行する場合、顎関節の形態的变化や咬合異常が顕著となり、これに対する早期の介入が重要です。本講演では、顎関節円板障害の対する診断とエビデンスに基づく治療アプローチについて、最新の研究成果を交えながら説明します。

#### <講演内容>

- I 顎関節円板障害の病態と診断
- II 顎関節円板障害に対する治療
- III 保存療法や外科的介入の適応とその  
タイミング

#### <専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症に対して治療・管理ができる

#### <略歴>

- 2004 年 3 月 新潟大学歯学部歯学科卒業
- 2004 年 4 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎口腔外科専攻生
- 2005 年 4 月 焼津市立病院歯科口腔外科研修医
- 2008 年 4 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎口腔外科医員
- 2009 年 10 月 千葉県がんセンター麻酔科医員
- 2010 年 4 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎口腔外科学分野医員
- 2018 年 4 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野助教
- 2022 年 5 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野講師
- 2024 年 10 月 東京科学大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野講師

代表的所属学会等：

- 日本顎関節学会 指導医・専門医
- 日本口腔外科学会 指導医・専門医



## 高岡 亮太

(大阪大学大学院歯学研究科  
クラウンブリッジ補綴学・顎口腔機能学講座)

### 『変形性顎関節症の診断および治療について』

#### <要旨>

変形性顎関節症 (OA) は顎関節症の終末期と考えられており、その症状が著しい場合、患者の QOL は著しく低下するため専門的な対応が求められます。OA と診断されたとしても治療の対象となるのは痛みや機能異常であり、その多くは保存的治療により寛解することが報告されているため、初期治療において不可逆的な咬合治療・外科治療は控えるべきであると推奨されています。一方、重度な OA では咬合関係を変化させることがあり、その咬合異常を放置した場合、歯の動揺や破折などを引き起こし、臼歯が崩壊するリスクが著しく上昇するため、全ての症例に対し漫然と保存的治療だけで経過観察すべきではありません。

今回の学術講演会では、OA の病態ならびに診断について解説し、また OA に対する治療のワークフローをご紹介します。さらに咬合治療について、治療介入のタイミングや具体的な治療法について詳しく解説させていただきます。

#### <講演内容>

- I 変形性顎関節症について
- II 変形性顎関節症の診断について
- III 変形性顎関節症に対する治療の流れについて
- IV 変形性顎関節症に対する咬合治療について

#### <専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症の発症メカニズムと兆候、継発する病態を説明できる
- ・医療安全に沿った診療が実施できる
- ・理学療法を行える
- ・咬合治療を行える

#### <略歴>

- 2006 年 Sydney English Language Centre にて語学留学  
2009 年 大阪大学歯学部 卒業  
2014 年 大阪大学大学院歯学研究科 修了  
2014 年 大阪大学歯学部附属病院 医員  
2021 年 大阪大学歯学部附属病院 助教

代表的所属学会：

- 日本顎関節学会 専門医・委員 (学術委員会、病態分類委員会、若手部会、会則検討委員会)  
日本補綴歯科学会 専門医・委員 (JPR 編集委員会)  
日本口腔顔面痛学会 評議員・委員 (広報委員会、渉外委員会、学術研究検討部会)  
Journal of Prosthodontic Research, Associate Editor  
The International College of Prosthodontists  
日本口腔インプラント学会  
日本双生児研究学会  
日本顎口腔機能学会